

【資料紹介】

# 登戸研究所資料館に求められているもの

—来館者アンケートの感想・要望から—

塚本百合子

## はじめに

明治大学平和教育登戸研究所資料館（以下「資料館」）では、来館者の性別・年代・住んでいる地域・来館のきっかけ、及び感想・要望を集める目的でアンケートを設置し、来館者にアンケート記入の協力を呼び掛けている。回答数は2010（平成22）年4月7日の一般公開開始時より11月10日まで、約700通である。また、アンケート回収率は、約1割<sup>(1)</sup>である。

本稿は、アンケートに書かれた感想・要望を主に紹介し、資料館が来館者にどのように捉えられているのかをみていくことを目的とする。なお、紹介するアンケートは原文通りである（脚注を除く）。

## 1. 資料館アンケートについて

本稿で取り上げるにあたり、資料館で使用しているアンケート用紙を以下に掲載する。

2010年4月7日から11月2日までは第1図のアンケートを使用、11月3日から現在は企画

明治大学平和教育登戸研究所資料館来館者アンケート			
ご来館日	年	月	日
ご来館のきっかけ			
新聞（新聞名	）・テレビ（局名	）・近所	
知人の紹介・その他（			
感想			
ご意見・ご要望			
男性・女性    10代以下・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・90代以上			
*差し支えなければご連絡先をご記入ください			
アンケートご協力ありがとうございました			

第1図 常設展アンケート

江戸研究所資料館 来館者 アンケート

本日は、明治大学平和教育江戸研究所資料館にご来館いただきありがとうございます。今後の参考といたしますので、アンケートにご協力ください。

1 お客様について、あてはまるところに○をつけてください。

【ご来館日】 年 月 日

【性別】 1 男性 2 女性

【年代】 1 10代未満 2 10代 3 20代 4 30代 5 40代  
6 50代 7 60代 8 70代 9 80代以上

【お住まい】 1 川崎市 ( ) 2 神奈川県 ( ) 市・町  
3 東京都 ( ) 市・区 4 その他 ( )

【来館回数】 1 はじめて 2 ( ) 回目

2 来場されたきっかけは何ですか？ あてはまるところに○を付けてください。(複数選択可)

1 当館パンフレット (入場場所: )  
2 新聞 (新聞名: ) 3 雑誌 (雑誌名: )  
4 テレビ (テレビ局名: ) 5 明治大学在学 ( ) 学部  
6 学校行事 7 知人から  
8 近所 9 当館のホームページ  
10 インターネット 11 「資料館だより」  
12 その他 ( )

3 表示内容にご満足いただけましたか。

1 満足した 2 まあ満足した 3 あまり満足しなかった 4 満足しなかった  
(理由: )

4 感想、ご意見、ご要望、今後希望する企画展示などお聞かせください。

5 今後、企画展・講演会等のご案内を希望される方は、下記にご連絡先をご記入ください。  
※ご記入いただいた氏名や個人情報は、企画展・講演会のご案内以外の目的には使用いたしません。

ご住所: 〒

ご氏名:

アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。

第2図 企画展アンケート

展開催<sup>(2)</sup>に伴い第2図のアンケートを使用している。

## 2. 来館者の感想・要望

### 2-1 評価の声

明治大学が旧日本軍の戦跡を保存し公開した決断への評価や、今まで表に出ることのなかった戦争の裏側の部分を紹介したことへの評価が多く寄せられている。そのいくつかを以下紹介する。

旧日本軍の戦跡を保存し公開した大学への評価の声

「旧軍施設は取りこわされることが多いので、この様な施設は、意義深い。」(30代男性)

「貴重な戦争時代の資料として、残す判断をした明治大学に感謝します。」(60代女性)

「日本の戦争加害の歴史を学ぶ貴重な資料館だと思います。一人でも多くの日本人、一人でも多くの外国人に見て欲しいと思います。」(60代男性)

「大学の中にこういった施設があるということも素晴らしいと思います。知識を教わるだ

けでなく、人間としてどう生きるかを考えさせることも、教育の重要な役割だと感じました。」(20代女性)

「研究をするための施設が戦争という時代背景により本来の目的を変えざるを得なかったことは不幸であるが、このような事実を学校というアカデミズムの中で保存・公開することは素晴らしいことだと思う。若い世代に是非紹介して欲しいです。」(40代性別不明)

「息子が一昨年、小6のとき夏休みの宿題で登戸研究所について調べてまとめた。私も明大での<sup>(ママ)</sup>残物、たてものなどを何度もみたことがあるが、こうしてまとめた資料館の開館はすごいことだと思う。」(年代不明女性)

「このような特別の施設を残された事、とてもありがたいです」(60代女性)

「博物館として残してくれてよかったと思います。徹底的に証拠隠滅がはかられた事なので、わずかでもその歴史をしることは大切だと思う。」(60代性別不明)

「一般の人が見学できる戦跡を残して頂けありがたいです。」(50代男性)

#### 戦争の裏側や加害側からの展示内容を評価した声

「戦争と科学が出会った場所として、また、それが初めて語られた場所として、大変意義深い。地元住民として発見もあった。」(10代男性)

「空しゅうなどのひがいをうけたことの展示は今までよくみかけましたが、当時の戦争へ<sup>(ママ)</sup>の加担した資料館ははじめてです。すごく貴重だと思います。」(40代男性)

「日本の加害をきっちり伝える資料館があるということはとても良い。地域の中で動いていた研究所がどういった空間の広がりにつながっていたかが見えてきてよい。」(30代男性)

「登戸研究所のことは名前ぐらいを知っているだけでしたが、こんな戦争遂行の国家プロジェクトの中核になっていたことに驚かされ、また、731部隊や中野学校などの諜報機関とのつながりも明らかにされ、アジア・太平洋戦争遂行時の日本の暗部をまざまざと見せていただいたと思います。みなさまのご苦勞にほんとに頭が下がると同時に、こんなすばらしい戦争資料館が東京にできたことは、大きな誇りだと思います。何度も来たいです。」(40代男性)

「戦後もなお秘密のままにされようとしていた謀略戦・戦争犯罪をきちんと明らかにしていること。またそれが天皇の命<sup>(ママ)</sup>がかかわっていたことをきちんと掘り起し明示している点も評価されるべきだと思った。」(年代不明男性)

「戦争に対して正しい認識とは一体何だろうというのが人々に問われるでしょう。過去の歴史に直面できる勇気を持つ日本人はすごい。例：生物化学武器を開発して使うのは[先]<sup>(3)</sup>代の日本の関係者で、つまり、われわれとしては『父親』の罪についてどう思うということです。中国人として、日本人のこういう正しい歴史[認]<sup>(4)</sup>識を感じ自分の母国を見

れば<sup>ママ</sup>恥しい。」(20代男性)

「日本の戦争加害の歴史を学ぶ貴重な資料館だと思います。一人でも多くの日本人、一人でも多くの外国人に見て欲しいと思います。戦争被害の歴史だけでなく、加害の歴史も学んでこそ、正しい歴史認識がつくと思う。多くの子どもたちに見学して欲しい。」(60代男性)

## 2-2 展示内容について

「よくまとまっていた」など展示内容を評価する声がある一方、「生物兵器のところをもっと掘り下げてほしかった」「731部隊との関連性を知りたかった」など、もっと掘り下げた展示内容を望む声や、「子供や若い人に興味を持ってもらうためには触れるものが必要」「子供には難しい」といった指摘の声もあった。また、展示方法については「斬新」「見やすい」という声と「見にくい」という声と双方があった。以下まとめて紹介する。

### 展示内容への評価

「中立的な表現がよい。」(50代性別不明)

「ふ号作戦の詳細を勉強できてよかった。」(20代男性)

「『読む』展示は非常に充実。よかった。」(50代性別不明)

「風せん爆弾のこんにゃくのりなど、リアルな内容が紹介されていたことにより、戦争の残こくさが伝わった。」(20代男性)

「わかりやすく、変に重たくしすぎず、内容に集中できました。」(20代性別不明)

### 展示内容への指摘

「展示物…まあまあだが、表面的。技術的深みに欠ける。」(60代男性)

「思ったよりかんたん。もっと制作とか気球の事が知りたかった。」(70代男性)

「当時の全貌がわかりましたが、もっと加害の様相、中国・朝鮮現地の方々がどのような被害を受けたのか、それに対する反省や責任の問題はどう未来をとらえるべきなのか表して欲しかったように思います。」(30代女性)

「戦争反対に誰も反対しない。ただ、現実には今も各国同じような研究を行っている。それに対する視点も必要に思う。」(70代男性)

「理系キャンパスなので、毒物などもっと詳しい説明が<sup>ママ</sup>遭っても良いと思った。」(20代女性)

「現在のキャンパス内の配置と当時の建物の対比がちょっとわかりづらく、実感しづらいところがありました。」(30代性別不明)

「細菌兵器の実態についてもっと展示してほしいです。」(40代男性)

「中学校でレポートをかくために来館したんですけどちょっと内容が難しかったです。もう少し簡単な説明だとわかりやすいです。」(10代女性)

「言葉がむずかしかった。」(10代男性)

#### 展示方法への評価

「大変素晴らしい。その展示方法も現代的ビジュアルであるだけでなく、その内容も、歴史的背景や今日的な視点で展示されている。」(年代不明男性)

「素晴らしい展示に感心しました。図や表、写真などを使った展示はとても分かり易く、理解を大いに助けてくれました。是非日本人の全てがこれを見てほしいと思います。」(50代男性)

「展示のしかたが分かりやすく、戦争当時の様子が伝わる。」(50代性別不明)

「非常にスマートに展示され、限られた時間内でもよく理解できる施設であると感じた。」(50代性別不明)

「想像以上に素晴らしかったです。展示内容の工夫、展示物のデザイン(見やすさ)等。」(30代性別不明)

#### 展示方法への指摘

「布に書かれて(印刷されて)いるので、読みづらい。」(60代男性)

「文字が小さく、上の方の文字、時計の裏など、判読できないものがいくつかありました。」(60代男性)

「全体的に展示がカラフルで若者向けな感じがしました。逆に年配者には色の識別が厳しい(見づらいかも)。」(30代女性)

「ディスプレイがちょっとかいすぎか。布への印刷の意味が不明。」(50代男性)

「展示の『ハガキ』<sup>(6)</sup>も読めません。読める字で出して下さい。」(70代女性)

「原資料のプリントが、ブルブルしていて読めないの、もう一工夫ほしい。」(70代女性)

また、実物資料展示の少なさを指摘する声も多くあがっている。以下紹介する。

「もっと資料(生の)の展示を望みたい。」(60代男性・女性)

「若い世代には実物展示も必要になるのでは。」(50代性別不明)

「展示品が少ない。ビデオ<sup>(6)</sup>にも『残されている部材の一部が展示され』とナレーションがあったように、一部ではなく全部展示してほしいです。資料など当時勤めていた方々に寄付を呼び掛けるべきです。」(50代男性)

実物資料が限られた点数のみ展示されている現況を改善していくことは、今後の課題の一つである。現在資料館では実物資料収集に努めており、より一層の展示の充実を目標としている。

### 2-3 中学生、大学生の見学レポートより

資料館設立の主要目的の一つに平和教育<sup>(7)</sup>がある。それでは、戦争を知らない若い世代は資料館を見学することで、どのように戦争と平和を捉えたのであろうか。ここでは、見学に訪れた中学生と大学生から送られてきた見学レポート及び感想文から、彼らが戦争と平和をどのように捉えたかを紹介する。

#### 中学生見学感想文より

「一番印象に残ったのは、細菌のことです。まずそんな兵器を登戸研究所という身近な所<sup>(8)</sup>で作っていたことに驚きましたし、そんな細菌みたいな発想に驚きました。」(中学1年生女性)

「今回の見学は私にとって、今までなっとくできなかったことを、受け入れることができるようになる見学だったと思います。『そんなことに頭をフル回転させないでほしい』という思いがさらに強くなりました。」(中学2年生女性)

「私は昨日登戸研究所を見学して、はじめて日本が戦争をやった裏の事実を詳しく知ることができました。私は戦争をするということをよくわかっているつもりだったけど、日本は原爆を落とされているということもあってか、どうしても相手国の方が酷いことをしたのだというように思ってしまうところがありました。でも、資料館にあった展示品などを見ていくと、日本も同じくらい酷いことをしたのだということがよくわかりました。そして考えを改めることができました。」(中学2年生女性)

「戦争は、やはり人を殺し人を変えてしまうおそろしいものですが、逆にいうと科学をものすごく発展させたものだと感じました。その科学をまちがったことに使うとこんな戦争が起きるんだなと思いました。」(中学2年生男性)

#### 大学生資料館見学レポートより

「元研究員は、誤った教育と書いてありましたが<sup>(9)</sup>、今の私は『正しい教育』を受けているのでしょうか？前では間違っていたとされても今は正しかったりするので、今からでも私は過去と今を見つめなおしていきたいと思う。」(大学2年生男性)

「まず、私が驚いたのものとして、生物化学兵器が作られたり、実験が行われていたことである。一般的に戦争というのは爆弾や核で戦うという概念が私の中にあったので、かなり新鮮だった。特に『人間の戦意を喪失させる』と資料に書いてあったので戦争というものの

恐ろしさが伝わってきた。」(大学4年生男性)

「『過去の汚点』を残しておく、記事にしておくことで、自分のような戦争のことを余り知らない、というか現実であったことだと思えない人にはぜひこれを見てほしいと思います。〔中略〕これを見たからといって、過去の人々がやったことをつぐなおうとか、そういったことを思うわけではありませんが、これからの人生感が少し変わるかもしれません」(大学2年生男性)

「この時代から小型カメラが作られていた事におどろいた。『人と争う為に』という行動力は、何も無い時のそれより、もしかしたら何倍もすごい力を発揮できるのかもしれない。とても悲しい事だが、戦争がなかったら、今の日本が先進国だという未来もありえなかった事かもしれないと感じると、あの頃の犠牲者だけでなく、当時真剣に兵器の研究を進めていた人たちの気持ちも無碍にははいけなと感じた。」(大学3年生女性)

「戦争は確実にやってはいけないことだが、このような様々な技術を発展させたのはまさに戦争によるものである。今日はここを訪れて、今までとは違った観点から『戦争』というものをみる事ができた。正直、今もここからひきつがれるものがいくつもあると思う。『戦争はやってはいけない、ひさんなもの』という立場ではないところから触れたのは初めてで技術の研究に関心させられた。」(学年不明男性)

#### 2-4 元登戸研究所関係者や家族より

開館以来、多くの元登戸研究所関係者や家族の来館があり、登戸研究所に関する証言が集まってきている。ここでは元登戸研究所関係者や家族からの感想を紹介する。

「父が研究所で働いていたので、調べに来ました。〔中略〕父と一緒に働いていた方ともお会いできてよかったです。」(年代不明女性)

「思い出深いものを見せていただきました。戦後生田<sup>(ママ)</sup>へ来て一時私の姉が研究所で働いていた記憶があり、〔中略〕姉が働いていた時の記憶が少しでも分かればと思い来てみました。」(年代不明男性)

「戦争中女学生の時、静岡で動員学徒で風船バクダンの和紙を作りました。コンニャクがのりにつかわれていると初めて知りました。アメリカがおどろいであれしいです。此の後三菱重工業の防空ごうでクラスが直げきに<sup>(ママ)</sup>逢い、2人生き残りました。」(80代女性)

「昭和20年私は、陸軍中央特情報部の一員でありました節に、当時の第九陸軍技術研究所第一科に、電波関係の兵器を〔3字不明=筆者〕来所した経験がありましたので、当時を思い感無量でありました。」(年代不明男性)

「父が昔ここで働いていた為、この資料館を見たいと言われ、父を連れてきました。個人

的にはもう10年早く資料館ができていれば、父にとってもっと理解できてよかったのにと残念に思いました。」(50代女性)

「亡くなった父親から登戸でにせ札、細きん兵器を作っていたと聞いたことがあります。あまり知らない人が多いと思うので知人や子どもにすすめたいと思います。」(40代女性)

「戦争中に私たちがかわっていた風船爆弾のことを陳列してあり戦争の事が色々とわかった。おそろしい研究だと思った。」(80代女性)

## 2-5 要望

感想とともに多くの要望も寄せられている。来館者からの要望により実現したもの、及び多くの要望がありながらも現段階では実現に至っていないものの双方を、対策も含め以下紹介する。

### 実現した要望

「通路入口 正面玄関左～というような矢印必要。私共は右手からみて不思議な体験しました<sup>(10)</sup>。」(年代不明男性・女性)

「入り口がちょっとわかりづかったです」(年代不明男性)

→入り口に立て看板、資料館内に順路パネルを設置した。

「正門から資料館までの道案内をお願いします。」(年代性別不明)

「校内の案内板(門から資料館)を早急につくって下さい。」(年代性別不明)

「表にも(大学の門にも)開館時間を明記したほうがいいのでは。休館時にムダ足を運ばせてしまう。今日もあいているかどうかわからなかった。」(年代不明男性)

→大学門に資料館の看板、キャンパス内に道案内看板を設置した。

「この資料館自体が、〇科の物なのかどうか等、わかれば良いと思います。」(40代男性)

「現在残されている資料館の建物が、どういうものなのかをわかりやすく説明してくれるとよいと思います。」(40代女性)

→ロビーに資料館自体が登戸研究所史跡であることを説明するキャプションパネルを設置した。

「関連資料を売るコーナーがあれば、と思います。」(50代性別不明)

「より詳しい資料本の展示・販売もあるとありがたいです。」(60代性別不明)

→大学構内の書店にて登戸研究所関連書籍コーナーを設置した。



「是非 website でこの資料館を海外にも紹介して下さい。」(50代男性)

「ホームページやパンフレットの内容を充実させることができれば、もっと沢山の人が興味になる。」(80代女性<sup>ママ</sup>)

→ウェブサイトの開設とパンフレットの改訂を行った。

#### 今後実現が望まれる要望

“Hoped to see some English explanations.”(20代男性)

「英語の表示があるとよい。日本への留学生にも知ってもらいたい。」(40代男性)

→2011年度発行を目指している。

「資料集(ブックレット)などの出版、有料配布物などをご検討ください。」(50代男性)

「展示内容のカタログのようなものが欲しい。」(20代性別不明)

→2011年度発行を目指している。

「旧陸軍の消火栓などはきちんと案内板を立ててほしい。」(60代男性)

「慰霊碑、消火栓など、看板を出して下さい(学生のPRにもなる)。」(年代性別不明)

→現在検討中である。

「川崎市の中学生・高校生が定期的に訪れるような仕組みができればと思います。」(40代性別不明)

「広く報じられますように！特に中高生啓蒙して行って欲しいと思います。若い時に戦争の愚かさを学んでほしい。」(70代女性)

→学校単位での団体見学が定期的に行われるように現在準備中である。

### 3. 今後に向けて

来館者が何を求め何に関心を持つのかを知ることは、資料館の運営において極めて重要なことである。そのためにアンケートが有効であることが、開館時以来アンケートを回収してきて分かった。要望をあげてもらうことで具体的な対策がとりやすく、来館者にとってより利用しやすい環境をつくることができる。また、感想からは、何が来館者の興味を惹いたのかが具体的に読み取れ、今後の展示の参考となる。

今後も、来館者へのアンケート記入の協力を継続的に呼び掛け、資料館のさらなる充実に役立てたい。

注

- (1) 一般公開開始時の2010年4月7日～11月10日まで、約7,500人の来館者があった。
- (2) 2010年11月3日～12月18日まで、第一回企画展「戦争遺跡写真展 登戸研究所から戦争遺跡をみる～川崎を中心に～」を開催。
- (3) 筆者加筆。
- (4) 筆者加筆。
- (5) 第五展示室にて展示されている書簡が布に印刷され、にじんで見えるためだと思われる。
- (6) 資料館内で上映しているドキュメンタリー映画「蘇る登戸研究所」のこと。詳しくは、本特集号所収の吉田論文を参照されたい。
- (7) 資料館ロビーにある「展示のねらい」には「この資料館は、陸軍登戸研究所の全貌を伝えるとともに、戦争と平和について考える場になることを目的としています。」とある。
- (8) 資料館近隣中学より見学にきた中学生の感想。
- (9) 第五展示室「和田一夫氏（元第一科雇員）の思い」を読んだ感想だと思われる。
- (10) 資料館は入り口を背に、左まわりに見学する設計になっている。